

超過負担が財政を圧迫

保育所の国へ意見書提出

適切な予算措置を要望



(毎年ふえていく保育園児たち。超過負担の解消を強く要望しています。)

建設費の高騰や不足は、各自自治体の公共建設事業に深刻な問題を与えています。とくに、超過負担(自治体の持出し)の問題は財政に大きな負担要因となつています。市では、保育所建設など、国の補助率が低いのに対し、「保育所制度にかかる国の支出金の算定に関する意見書」を内閣総理大臣と衆参両院議長に提出しました。

市民と結びついた公共建設事業は、推進しなければなりません。しかし、これにかかる事業費など市の財政はきびしいものがあります。保育所の超過負担の問題は、現在、八月下旬に大阪府摂津市が国を相手として、東京地裁に対し、行政訴訟を起しています。超過負担の問題は、この自治体も抱え、都市財政に圧迫を加えています。保育所の設置に対する国の財政的措置の現定は、地方財政法で基本原則が定められ、同法第十条の二第五号に国が全部または一部を負担する経費とされ、その負担割合は、児童福祉法第五十二条、同法施行令第十五条、第十六条により、「市が使った費用から寄附金などの収入を差し引いた精算額の二分の一を負担することになっています。」

超過負担

現状は

市の場合、昭和四十六年度に建設した保育所についてみると、建設費五千八百九十九万六千円で、国の負担割合からすると、二千九百九十九万八千円を国が負担すべきにもかかわらず、補助された額は三百三十三万円で、その差額二千六百六十六万八千円は、市の一般財源で肩がかりしました。また、過去三か年における保育所運営の中で超過負担といわれる額は、昭和四十五年度十九百二十六万四千円、昭和四十六年度四十五万七千円、昭和四十七年度五十九万九千六百六十六円と増えています。

超過負担の解消を要望
こうした数字の上からみても



(でんちと茶器セットをプレゼント) 米寿を祝う "でんち"をプレゼント

88歳の「米寿」を祝福し、お年寄り6人の方に、「でんち(羽織下)」をプレゼントしました。贈られたのは、長谷川サトさん(寺戸町西野辺)、金田サワさん(寺戸町大牧)、江馬務さん(鶏冠井町荒内)、藤田ヨツ子さん(上植野町南小路)、畑ツ子さん(鶏冠井町稲葉)です。この米寿を祝福しての贈りものは、毎年行なっているもので、市長に代わって、福祉事務所の職員が、お年寄りのお宅に訪問し、手渡しました。また、でんちのほかに、府から茶器セットも贈られ、お年寄りの人たちは、二重のプレゼントに喜んでおられました。

楽しいバスの旅

敬老会を開く



(楽しい午後のひとときをすごされる)

市内のお年寄りを楽しいバスの旅に―と、市の敬老会が九月十日、大阪のPランドで開きました。この敬老会には、中山市長、木村市議会議長も出席し、お年寄りにたいして、バスに乗りました。午前十一時三十分ごろ、Pランドに到着、中山市長は、お年寄りの人たちに前にして、「ささやかな催しですが、今日は家や孫たちのことも忘れ、大いに楽しんでください。これからも健康に気をつけて、いつまでも元気に、長生きをしてください。」と慰労の言葉をかけられました。おもしろいグループにわかれたお年寄りの人たちは、お弁当を開け、歌謡ショーや演劇を観劇し、楽しい午後のひとときをすごされました。

金賞に松波さんの作品

川美ポスター審査会

応募点数は三十五点

川美運動の推進の輪を広く推進しようと、市内各小学校で募集した、川美ポスターの審査会が九月二十日午前十時三十分から市役所大会議室で開かれました。この川美ポスターの募集は、市内各小学校児童五、六年生を対象に六月下旬から募集したものです。審査会には、市長、助役、川美会長、川美会支部長、小学校長ら十二人で応募作品を審査しました。川美のテーマには選ばれたもの三十五点を除いた三十二点を審査しました。



(みごと入賞をはたした三人の児童)

審査は、三十二点の作品から第一次審査で六点を選出し、第二次審査はその六点の中から優秀作三点を選ぶという方法で審査しました。優秀作三点は、学校の美術の先生の意見を参考に審査した結果、金賞に松波美和ちゃん(第三向陽小三年)、銀賞に長谷川照代ちゃん(第二向陽小六年)、銅賞に浅野めぐみちゃん(第三向陽小六年)と決まりました。九月二十五日午前九時から、市役所応接室で表彰式が行なわれ、表彰状と記念品が、助役から金賞の松波美和ちゃんに、また銀、銅賞の長谷川照代ちゃんと浅野めぐみちゃんに川美会長から贈られ、喜びをかみしめていました。金賞をとった松波美和ちゃんの作品は、ポスターとして印刷されます。

投稿をお寄せください

市民コーナーを設置

紙面をさらに充実させ、親しまれる広報紙にするため、市民の方の参加するコーナーを設けていきたいと思ひます。

私の意見

これまで、多くの方から意見をお寄せいただき、掲載させていただきました。日常生活の中で感じていることや市の行政などについて、建設的な意見をお寄せください。

正しい高速走行で安全運転を

高速道路での交通事故が多いかわず増加しています。昭和四十七年中に起こった交通事故は、八百五十六件(前年中に比べて二・五パーセントの増)にのぼり、死者百五十一人、重傷者四百三十三人といふ多くの犠牲者を出しています。

市民全員で川を美しく

第三向陽小学校 六年二組 小野由紀

川美作品から

「川を美しくする作文」を掲載します。小学校児童がどうすれば川美を推進できるのかをつづったものです。みなさんいっしょに読みましょう。

川を美しくは幸福への糸口

第三向陽小学校 五年一組 平岡理恵

「川」それは、私たちの身近にあり、主食であるお米とも大変にかかわりをもっています。汚染された川の水が流れたらお米は汚染されています。川の汚染は、海の汚染へもつながっていくのです。PCBなどの海の汚染は、工場はいくつか船から出る油を捨てばなく、川の汚れも関係があるので、

汚さないならば、なるべく使わないようにするのいいと思います。こういうことばをつければ、川は、もっと美しくなるでしょう。また、下水道があれば、もっともつよいですが、それは市などで、作ってほしいです。ひとりひとりが心がけて、川と川を美しくすれば、海の汚れもまじりません。川にゴミを捨てたり、きれいな水を流したりする人たちがいます。これは、市民が、昔のよき川魚などが住む、美しい川にしようといふ願っている現われでしょう。けれども、何も考えずに、川にゴミを捨てたり、きれいな水を流したりする人たちがいます。これは、せっかくみんなが美

しゅうとして、なんにもありません。まことに「汚川」です。ですから、川をきれいにして、今日から絶対よき川にしよう。また、自分で自分にかいませよう。そして、市民全員が協力して、注視あつて、川を美しくしていきましょう。



しゅうとして、なんにもありません。まことに「汚川」です。ですから、川をきれいにして、今日から絶対よき川にしよう。また、自分で自分にかいませよう。そして、市民全員が協力して、注視あつて、川を美しくしていきましょう。